

【大阪の歴史散歩】

天保山跡

天保山は1831年（天保2年）、安治川・木津川等の市内の堀川に流砂が堆積し、船の航行に障害となったため、鴻池善右衛門・加島屋久右衛門らの大阪の豪商に、全市の町民が経費を負担し、勤労奉仕をして大規模な“大川浚え”を行なった。その際、浚渫した土砂の殆どを積み上げ、船舶の航行の目印としたのが天保山で、目印山ともいわれた。その後、桜を植え、茶店を設けて冬の雪見や夏の遊船、四季を通じての和歌・俳諧の集まりなど大坂町民の行楽地として栄えた。

1854年（安政元年）にはロシアの太平洋艦隊司令官プチャーチンが入港し、大坂中は大いに混乱した。ロシア語の通訳には適塾の塾生が協力したと伝えられている。それ以後、砲台が築かれ要害の地となって各藩が警備に当たった。また、1864年（慶応4年）には明治天皇の大坂行幸の際の日本最初の観艦式が行なわれた。

近世、九州・四国への海上交通が盛んな頃には

旅客ターミナルとして多くの人々の通過点であったが、フェリーの大型化、発着回数の増加にとまない別の場所に専用埠頭が建設され、その用を失った。最近では、日本最大の大型水槽を誇る“海遊館”、“サントリーミュージアム”と世界各国の商品を集めた“マーケットプレイス”が建設され家族連の人気を博している。また、海遊館のすぐ横からは、大阪湾の観光船や南港の“ワールドトレードセンター（WTC）”への定期船が出ており、アフターファイブの若者たちのウオーターフロントでのデートスポットにもなっている。

また、大阪港駅前の頭上には阪神高速道路の湾岸線と大阪港線に地下鉄の高架が輻輳し、あたかもコンクリート構造物の展示場の様相でもある。

“海遊館”へは地下鉄中央線大阪港駅（本町駅乗換約12分）より徒歩5分。天保山完工記念碑のある港住吉神社まで3分。

（写真はサントリーミュージアム）

